

海外生活レポート

アフガニスタン 10

Norko Dethlefs(紀子・デスレフツ)さん

アフガンの動向

お元気ですか?先月(2007年1月)のカブールはほとんどずっと-15という寒さでした。例年よりも暖かい気候に、不穏な動きも再び活発化し始めています。ヘラート空港付近で、また自爆テロによる事故が発生しました。最近、アフガン独立人権委員会と国連のアフガニスタン事務所が、テレビを通じて、戦争犯罪に加担した疑いのあるアフガン元将軍たちを裁判にかけると表明したのです。名指されたのはいずれも著名な軍人ばかりで、現政府の要職についている人も大勢います!イラクの元大統領の処刑は、特にそのタイミングの悪さでアフガニスタン人の怒りを買う結果となりました。

1月10日^{注)}も、去年はひと騒動あったので心配の種だったのですが今年はとても静かにすぎ、わたしたちも外出禁止令を家で満喫していました。シーア派教徒の多い地域では、男たちは道に繰り出して自分の身体を打ちます。剃刀の刃を埋め込んだ鞭^{むち}など鋭いものを使って打つので、身体は血だらけになります。この儀式によって彼らは、イスラムの歴史の初期に起きたカバラの戦いで、何百人という兵士たちと共に敵の凶刃に倒れた、アリ・フセインという英雄に自分を重ね合わせるのだそうです。

最近嬉しかったこと、意外なしきたり

ベシャワールで心臓手術をうけたうちの守衛さんがヘラートに帰って来て、みんなで大喜びしました。ベシャワールではとても手厚く世話をしてもらえたそうで、病院では義足まで貴重品としてしっかり保管してくれたそうです。

もうひとつ嬉しかったのは友達の弟さんが結婚したこと。

昨年1年間、弟さんにふさわしいお嫁さんを探しまわって一喜一憂する彼女にずっと付き合っていた身としては、喜びもひとしおです。両家との度重なる話し合いがすべて終わるまで、弟さんは未来の奥さんと一度も顔を合わせることがなかったそうですが、お姉さんの心と眼は自分のそれでもあると信じて疑わなかったとか!婚約の儀式が済むと、彼女は週末ごとに婚約者の家にディナーに呼ばれ、何とフィアンセと二人きりの部屋に泊まって帰っていたというから何とも驚きです。16歳の彼女は

結婚の日には妊娠していて少し身重に見えました。結婚式の前は一緒に出かけることも御法度なのに、婚約者の家でなら週1回、共に一晩過ごすことも許される、これがどうやらヘラートのしきたりのようです。

女子の教育

私の生徒の中に、心臓外科医になろうと強く心に決めているとても聡明な女性がありますが、彼女は結婚なんて絶対考えたくないと言います。勉学を続けて良いとの約束で結婚したものの、式が終わったとたんにその約束が反古にされたという友達を大勢見てきて、そんな危険を冒したくないと言うのです。私が教えている女生徒たちは、タリバン政権下で隠れて勉強をした逸話をいろいろもっています。ある女生徒は近所の子供たちを集めて教えていたところをタリバン兵に捕まったのだけれど、その兵士は彼女を牢屋に入れるために戻って来たのかと思いきや、自分の子供を連れて来て「この子も入れてくれ」と頼んだのだとか!!

コミュニケーションも一苦労

ここ数週間は、ヴェールで頭を覆わなければならないというこちらの風習に、悲痛な気分ながら感謝しました。現地の床屋で髪を切ってもらったのですが「少しだけ切つて」と言ったつもりが「少しだけ残して」と勘違いされたようです。ロジャーにとっても私にとっても、ここでのコミュニケーションは相変わらず「冒険」です。複雑な交渉のときには特にです。夫のロジャーは病院でそうした状況に何度となく巻き込まれ、意見の違うドクターやスタッフたちの間に立って苦労しています。都市から離れた地域での病院開設は、気が遠くなるほど大変です。今週最後の患者は、地雷撤去の作業中に爆発で怪我を負った気の毒な若い男性でした。地雷の撤去には(仮に完全になくなるのがあったとして)まだあと何年もかかることでしょう。

多国の人々と共に

私は今や、私たちのフェローシップの中で最年長のひとりですが、メンバーが交代して異なる背景をもつ人が入って来ると、そのつど礼拝のスタイルも変わるので面白いです。こうしているいろいろな国の多くの人々と共に生活して、たくさんのがが学べる今の状況は本当に恵まれたものです。

Pesh-e -U iA khUb!!!!(私の善意をあなたの前に捧げます)の言葉とともに筆を置きます。

紀子

注) the 10th of Muharram: 太陽暦で2月9日前後。移動祭日のようです。

これからの協会行事のご案内

外国人対象 板前さんの寿司教室(お弁当編)
日程: 2008年1月14日(月・祝)
午前10時30分~午後1時30分
会場: 川崎市国際交流センター・料理室
献立: 卵焼き、のり巻き(各種)サラダ巻き、お吸い物
参加費: 1,000円(当日払い)
申し込み: 12月25日(火)午前9時30分から
受付開始、電話かFAXで
定員: 20名(先着順)
持ち物: エプロン、三角巾(バンダナなど)、筆記用具、ハンカチ
備考: 1歳以上の託児あり、無料、予約が必要

第14回 外国人市民による日本語スピーチコンテスト

日程: 2008年2月16日(土)
午前10時~12時30分
会場: 川崎市国際交流センター・ホール
主催: 川崎市国際交流協会
後援: 川崎市教育委員会
協賛: 川崎ライオンズクラブ 創作集団 にほんご 山下秀男 評議員
恒例になりました、スピーチコンテストが今年も開催されます。川崎市内の日本語学級や学校などで日本語を学習している、来日5年未満の外国人市民の皆さんが、お国自慢や日本でのさまざまな体験などをユーモラスに、また、時には涙とともに熱く語ります。この機会に是非、聞きにいらしてください。コンテスト終了後、交流会(有料:500円)を予定しています。(要予約)

予告編

音楽でめぐる世界の旅 冬の旅「ヨーロッパ周縁を訪ねて」

日程: 2008年2月7日、14日、28日、3月6日(全4回)
木曜日午後2時から3時30分
会場: 川崎市国際交流センター・ホール
受講料: 4回シリーズでの申し込み 2,000円
1回ごとの申し込み 500円・3月6日のみ800円
定員: 各150名(先着順)
申し込み開始 2008年1月25日午前9時半から

編集後記

今回の特集「留学経験者のインタビュー」に同席させていただきました。それぞれ7年間アメリカ、4年間カナダという貴重な留学経験を積まれた方々で、その体験談を話してくださいました。これから留学を希望される方の参考になれば幸いです。インタビューは、話が盛り上がり時間を忘れてしまうほどでした。楽しいお話をありがとうございました。

相沢 明子

国際交流協会だより

ザルツブルク市 ジャパン・アート・フェスティバル

参加のお誘い

毎年、オーストリアのザルツブルクでイースターの時期に開催される「イースター音楽祭」が、今年(2008年)3月に開催されます。音楽祭ではカラヤン生誕100周年を記念し、カラヤンの愛弟子であり、川崎市ともゆかりのある小澤征爾氏がベルリンフィルを率いてコンサートを行う予定です。

この音楽祭の開催にあわせ、現在、ジャパン・アート・フェスティバル実行委員会はザルツブルグ市のコンgresセンターにて、2008年3月21日から23日の3日間の日程でジャパン・アート・フェスティバルの開催を企画しています。

フェスティバルでは音楽祭のために世界中から集まるお客様に、日本の伝統文化・芸術を紹介するための川崎コーナーを設け、茶道、華道、着物、書道、工芸、舞踊、人形、生け花、お琴などの日本文化の展示・実演を計画しています。

この機会に日本文化を海外の方に紹介したいとお考えの団体、会の皆様、また市民文化交流に興味のある方、奮ってご参加ください。

詳細は当協会までお問い合わせください。

TEL: 044-435-7000

川崎市国際交流センター

〒211-0033 川崎市中原区木月祇園町2番2号
TEL 044-435-7000 FAX 044-435-7010
http://www.kian.or.jp/kic/

